下着に対する関心度の測定

——公立高校の女子生徒とその母親における調査から——

高知大学教育学部 田 村 和 子 (会員)
 高知大学教育学部 小 松 弘 枝
 高知医科大学 大 原 啓 志

Measurement of Interests Concerning Underwears for a Group of High School Girls and their Mothers

Kazuko Tamura*, Hiroe Komatsu*, and Hiroshi Ohara**

*Faculty of Education, Kochi University, Kochi

**Kochi Medical School, Kochi

1. 緒 言

下着は、今日では、品質、デザインなどの多様化に伴い、自由な商品の選択が可能になっている。しかし、下着は見えないだけに、消費者が何を求めているのかを予測するのは難しい。特に、若い世代においては下着を省略する傾向にさえある¹⁾。

従来の下着着用に関する研究は、着用パターン・着用重量などからみたものや、下着の着方に関するもの、下着の着心地に関するもの、既製服サイズから検討したものなどがあげられる²⁾。しかし、消費者がどのような観点から下着を選択しているかについて科学的な分析はいまだ数少なく、高校生を対象にしたものは極めて少ない³⁾。

このような状況のなかで、商品を供給する側は、機能性を重視した下着やファッション性を重視した下着を提供しているのが現状であり、これからの消費者の動向を予測するのに高校生やその母親の下着に対する意識を知ることが重要であると考えられる。

そこで本研究では、公立高校の女子生徒とその母親を対象として、下着に対する関心度を調査し、両者の関心度の比較およびその因子構造を算出した。

2. 調査方法

2.1 調査対象および方法

調査は高知市内にある公立高校の女子学生（1年生と2年生）とその母親を対象に、平成3年9月中旬に行った。生徒については質問紙を配布し、調査の説明をした後、その場で回答させ回収した。母親については、生徒を通じて配布し、家庭で記入してもらい回収した。分析に用いることができた有効票は、配布数に対して、生徒の場合93%に当たる127名、母親の場合40%に当たる54名である。母親の年齢は38歳～46歳の者が多く平均年齢は42.8歳であり、その約半数はフルタイムの仕事に従事している。

2.2 測定尺度

被服に対する関心の程度について、「被験者の被服に対する多方面にわたる意識とこれに関する被験者の活動性の測定を含む」とRosencranzは定義している⁴⁾。つまり、被服の関心度の測定はこれらの活動に個人が参加する度数とか、活動に対する注目の期間の長短なども含まれており、下着についても同様に考えることができる。

そこで本研究では、下着の関心度の構成要件として、外観(装飾審美性)、個性の表現、ブランド志向、保健衛生機能、慎み深さの五つを考え、Ebeling⁶⁾、中川⁹⁾、藤原⁹⁾の意見項目から、有用と考えられる調査項目を選んで、「下着に対する関心度の測定項目」とした。

「下着」の範囲については、200名の成人女性を対象に調査した鈴木⁷⁾が、「下着という言葉から連想している下着名はショーツが最も多く、次にブラジャー、スリッパの順である」と報告していることより、質問紙に「下着という言葉はショーツ、ブラジャー、スリッパを指す」と記入して調査した。

各意見項目についての回答は、中立的な評定に集中することを避けるために4段階評定とし、「非常にそう思う」を4点、「少しそう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「全くそう思わない」を1点として得点化した。

2.3 分析方法

まず、生徒と母親別に各項目への反応の平均値を算出し、高得点の項目と低得点の項目から、下着に対する関心度を明らかにした。

次に、世代による差異を明らかにするために、項目別に平均値の差の検定(*t*検定)を行った。

さらに、下着に対する関心度の因子構造を明らかにするために、27項目を変数として因子分析を行った。因子分析は、ピアソンの相関係数を用い、主因子法により回転前の因子行列を求め、バリマックス回転により最終的な因子行列を求めた。因子の数は、因子の固有値が1.0以上で、抽出された因子の累積寄与率が70%を超えることを基準にして決定した。これらの計算は、高知大学情報センターのコンピュータを使用し、ANALYSTの統計サブプログラムを用いて行った。

3. 調査結果および考察

3.1 下着に対する関心度

生徒と母親の下着に対する関心度の測定結果を表1に示す。生徒、母親ともに肯定的な回答を得た質問項目は、「清潔さを保つために着る」、「寒さを防ぐために着る」、「身体保護のために着る」、「体の線を整えるために着る」、「おしゃれな下着を着たい」などである。その反対に否定的な回答を得た項目は、「一流メーカーの流行の下着を買う」、「下着のブラ

ンドを気にする」、「友達よりも派手な色やデザインの下着を着ている」、「下着のうつる服を着ても平気である」などであった。母親のみ否定的な回答を得たのは、「着心地よりも外観を重視する」、「夏場、スリッパを着ていない人を見るときまりわるい」であった。

次に、各項目別に平均値の差の検定(*t*検定)を行い、生徒と母親の下着に対する意識の違いを検討した。その結果、「着心地よりも外観を重視する」、「カラフルな色やデザインのものがよい」、「おしゃれな下着を買ったら他人に見せてもよい」については危険率1%水準で、「丈夫さよりもレース、フリルを重視する」、「友達より派手な色やデザインの下着を着ている」、「清潔さを保つために着る」、「寒さを防ぐために着る」、「体のラインがでている服をみるときまりわるい」については危険率5%水準で生徒と母親間に有意な差が認められた。このうち、母親の方の得点が高かった質問項目は、「寒さを防ぐために着る」、「体のラインがでている服をみるときまりわるい」であった。

以上の結果から、生徒と母親ともに下着本来の保健衛生的機能を重視する一方で、おしゃれな下着にも関心のあることがうかがえ、清潔さとおしゃれへの関心は生徒の方が高く、保温性と慎み深さについては母親の方が重視している結果を得た。

現代女性の下着観について、395名の18歳以上の女性を対象に調査した中川⁹⁾は、「下着本来の生理的機能を重視する一方で、ファッション性を強く求めており、下着のおしゃれに関心を持っていると答えた人が60%以上もいる」と報告している。このことは本研究結果とほぼ一致している。また、高校生の服装に対する態度について調査した中川⁹⁾が、「高校生はおしゃれを楽しみ、よりよく自分を表現したいと考えている人が多い」と報告していることを考えあわせると、高校生は着心地よりもむしろカラフルな色やデザインを重視しており、下着を「外着」の感覚でとらえていると考えることができる。

3.2 生徒の下着に対する関心度の因子構造

さらに、下着に対する関心度の因子構造を明らかにするために、生徒と母親別に因子分析を行った。因子の解釈は、因子負荷量0.45以上の項目で、負荷量の大きい項目の内容を中心に行った。

抽出された因子は4因子である。第1因子から第4因子を特徴づける質問項目および因子負荷量を表

表1 下着に対する関心度の意識項目の平均得点 (生徒: $n=127$ 母親: $n=54$)

質問内容		生徒	母親	t 検定
外 観 (装飾審美性)	下着は着心地よりも外見を重視する	2.31	1.76	**
	下着は丈夫さよりもレース、フリルを重視する	2.07	1.80	*
	値段が高くても装飾性のある下着を買う	1.97	1.81	
	おしゃれな下着を着たい	3.02	3.04	
	下着はファッションのために着る	2.39	2.20	
ブランド 志 向	下着のブランドを気にする	1.75	1.87	
	一流メーカーの流行の下着を買う	1.76	1.61	
個性の 表 現	下着はカラフルな色やデザインの方がよい	2.47	2.15	**
	新しい色やデザインの下着を着てみたい	2.35	2.28	
	下着にいろいろな色を取り入れたい	2.55	2.46	
	友達より派手な色やデザインの下着を着ている	1.74	1.52	*
	下着に自分の個性を発揮したい	2.61	2.54	
購買態度	色柄もののショーツを買う	2.84	2.61	
	下着にかけられるお金がもっとほしい	2.45	2.48	
	下着を買うときに雑誌や広告を参考にする	1.92	2.11	
	下着を買うときに時間をかける	2.46	2.48	
保健衛生 機 能	下着売り場をみて歩くことが好きである	2.15	2.37	
	下着は清潔さを保つために着る	3.69	3.46	*
	下着は寒さを防ぐために着る	2.74	3.06	*
	下着は身体保護のために着る	2.65	2.72	
慎み深さ	下着は体の線を整えるために着る	2.78	2.98	
	下着のうつる服を着ても平気である	1.73	1.83	
	最近の流行は体を露出させすぎている	2.39	2.65	
	体のラインがでている服をみるときまりわるい	2.28	2.61	*
他人意識	夏場、スリップを着ていない人を見るときまりわるく思う	2.28	2.00	
	おしゃれな下着を買ったら他の人に見せてもよいと思う	2.05	1.65	**
	下着は見られることを意識して買う	1.88	1.81	

* : $p < 0.05$ ** : $p < 0.01$

2に示す。

まず、第1因子に含まれる6項目をみると、ファッションのために、値段が高くて装飾性のある下着を買い、見られることを意識している内容となっている。以上から「外観（装飾審美性）」の因子と解釈した。第2因子はお金はないが、ショッピングが好きで、ブランドを気にし、新製品の着下を見て楽しんでいる内容を含んでおり、「ファッション性へのあこがれ」の因子と解釈した。第3因子は身体保護や保温、体型整容のために下着を着るという内容となっているので、「防護機能」の因子と解釈した。第4因子は体のラインを露出している服を見るときまりわるく思う内容となっているので、「慎み」の因子と解釈した。

以上の結果から、生徒の下着に対する関心度は、

「外観（装飾審美性）」、「ファッション性へのあこがれ」、「防護機能」、「慎み」の4因子によって構成されていることが分かった。

3.3 母親の下着に対する関心度の因子構造

抽出された因子は5因子であり、各因子を特徴づける質問項目および因子負荷量を表3に示す。

まず、第1因子に含まれる5項目を見ると、丈夫さや着心地よりも装飾性のある下着を買い、見せることを意識している内容となっている。以上から「外観（装飾審美性）」の因子と解釈した。第2因子は一流メーカーやブランドものを身につけており、お金があれば新製品をさらに購入したいと思っている内容となっており、「ブランド志向」の因子と解釈した。第3因子はいろいろな色の着下で個性的なお

表 2 下着に対する関心度の因子負荷量 (生徒)

因子	質問内容	因子負荷量	寄与率 (%) (累積寄与率%)
第 1 因子	下着はファッションのために着る	0.67	
	下着は丈夫さよりもレース, フリルを重視する	0.65	
	値段が高くても装飾性のある下着を買う	0.64	46.4
	下着は見られることを意識して買う	0.60	(46.4)
	下着はカラフルな色やデザインのものがよい	0.58	
	おしゃれな下着を着たい	0.58	
第 2 因子	下着にかけのお金をもっと欲しい	0.59	
	下着を買う時に時間をかける	0.54	13.0
	下着のブランドを気にする	0.52	(59.4)
	新しい色やデザインの下着を着てみたい	0.50	
	下着売場を見て歩くことが好きである	0.46	
第 3 因子	下着は身体保護のために着る	0.75	
	下着は寒さを防ぐために着る	0.61	7.9
	下着は体の線を整えるために着る	0.52	(67.3)
第 4 因子	体のラインがでている服をみるときまりわるく 思う	0.74	
	最近の流行は体を露出させすぎていると思う	0.70	6.9
			(74.2)

表 3 下着に対する関心度の因子負荷量 (母親)

因子	質問内容	因子負荷量	寄与率 (%) (累積寄与率%)
第 1 因子	値段が高くても装飾性のある下着を買う	0.77	
	おしゃれな下着を買ったら他の人に見せてもよい と思う	0.68	
	下着は丈夫さよりもレース, フリルを重視する	0.62	34.2
	下着は着心地よりも外観を重視する	0.60	(34.2)
	友達より派手な色やデザインの下着を着ている	0.52	
第 2 因子	一流メーカーの流行の下着を買う	0.78	
	下着のブランドを気にする	0.74	12.0
	下着にかけのお金をもっと欲しい	0.53	(46.2)
	新しい色やデザインの下着を着てみたい	0.45	
第 3 因子	下着にいろいろな色を取りいれたい	0.69	
	下着に自分の個性を発揮したい	0.60	10.5
	色柄もののショーツを買う	0.51	(56.7)
第 4 因子	下着はファッションのために着る	0.59	
	下着は体の線を整えるために着る	0.55	9.7
	色柄もののショーツを買う	-0.46	(66.4)
第 5 因子	最近の流行は体を露出させすぎている	0.65	7.2
	下着は寒さを防ぐために着る	0.45	(73.6)

しゃれを楽しんでいる内容となっているので、「個性の表現」の因子と解釈した。第 4 因子に含まれる 2 項目はファッションのために、体型を整える内容であり、残り 1 項目は色柄ものを買う内容であるが、その因子負量はマイナスであることより、「体型補正」の因子と解釈した。岡田⁹⁾は、女子 400 名 (18

～21 歳, 平均年齢 18 歳 9 か月) とその母親 (39～56 歳, 平均年齢 46 歳 10 か月) 366 名の下着の着用目的を調べ、「ブラジャーでは、(1)ボリュームをおさえ整容するためが娘では 26%, 母親では 51%, (2)防震効果による運動適応性が娘では 77%, 母親では 49%, ガードルでは、(1)腰部の整容が娘と母親ではともに

95%前後, (2)保温のために娘では31%, 母親では54%占めている」と報告している. このことから, 生徒は体育の授業や体育系のクラブ活動でバストを安定させるという必要性から防震効果を重視していると考えられ, 母親は身体の変化が外観をそこなっていることに気づいているので, 下着による整容効果を期待していると推察される. 第5因子は体を露出させすぎている流行を嫌い, 保温性の高い下着を着るという内容になっているので, 「慎みと保温性」の因子と解釈した.

以上の結果から, 下着に関しては, 外観(装飾審美性), ファッション性, 保健衛生(実用性)が要求され, さらに特に高校生には運動機能性(防震効果等)を, 母親は体型補正(整容効果), 慎み深さ, 上品さの3つの機能を重視していることが分かった.

4. 結 論

若い女子高校生とその母親を対象に, 下着に対する関心度を調査した.

調査結果を因子分析したところ, 生徒では, 「外観(装飾審美性)」、「ファッション性へのあこがれ」、「防護機能」、「慎み」の4因子が抽出された. 一方, 母親では, 「外観(装飾審美性)」、「ブランド志向」、「個性の表現」、「体型補正」、「慎みと保温性」の5因子が抽出された.

これらの結果から, 下着に対しては, 下着本来の機能である保健衛生や慎み深さの表現に加え, 外衣と同じように, 外観(装飾審美性)やファッション性も要求されていることが分かった.

引用文献

- 1) 井上和子ら; 東京家政学院大学紀要, 26, 21~27 (1986)
 - 2) 岡田宣子; 家政誌, 43, 1, 37~44 (1992)
 - 3) 中川早苗; 繊維誌, 34, P119 (1981)
 - 4) 中川早苗ら; 家政誌, 39, 8, 861~869 (1988)
 - 5) 藤原康晴; 家政誌, 33, 10, 548~552 (1982)
 - 6) 被服学体系分化会編; “被服科学総論(下巻)”, 日本繊維機械学会, p.116 (1981)
 - 7) 鈴木洋昭; 岐阜女子大学紀要, 19, 81~91 (1990)
- (平成4年5月6日受理)
(平成4年10月7日審査終了)